

## 「和顔愛語。優しい言葉は、花になる。」

静岡県 へきうんじふくじゅうしよく 碧雲寺副住職 いしがみはくりゆう 石上博龍

先日、ある詩集に、こんな一句が載っていました。

「優しいことば もらったら 心に あさがお 咲きました。」

これは、九十歳を過ぎてから詩を書き始めた柴田トヨさんが、九十九歳になって出版した詩集「くじけないで」に掲載されていたものです。

落ち込んでいるときに、「それはつらかったですね。」と声をかけてもらったり、

「悪いときばかりじゃないですよ。がんばってください」なんて優しい一言をかけられると、心が暖かくなりますね。まるで、きれいに咲いた花を見て、心の緊張がほどけていくように。

優しい言葉は、目に見えずとも、心に花を咲かせます。気持ちを前向きにしてくれる働きがあるともいえるでしょう。

元女子バレーボール、オリンピック選手の吉原知子さんが、以前テレビ番組でこんなことを言っていました。「声の出ていないチームは、気持ちもボールも上がってこない。みんなで声を掛け合ったら、ボールは上がってくるもの。ボールをとらない人も、コートの外の人でも、声を出すことでチームメイトを助けられる。それがバレーというスポーツです。」元気な声が出ているチームは、気持ちも結果も上がってくるという。バレーというスポーツだけでなく、社会における組織もまた同じように思います。

接客業で、まずはじめに新人社員に教えるのは、元気な声で挨拶と返事、それから笑顔だと聞いたことがあります。元気のいい挨拶を聞くと、それだけで気持ちが明るくなる時がありますね。笑顔にもまた、人の心を明るくする力が備わっています。

明るい笑顔と、気持ちのこもった言葉。自然と社会に浸透している習慣ですが、わたくしども曹洞宗では、これを和顔愛語といいます。

和やかな顔に、愛情のこもった言葉、とかいて和顔愛語。笑顔と優しい言葉が増えると、日々の生活が一層、和やかなものになります。

日頃の生活に、もう一工夫を加えて、笑顔で思いやりのある言葉を心がけてみてはいかがでしょうか。和顔愛語。その一工夫が、周囲を、そしてまた自らの人生を鮮やかに彩ってくれるのです。